

## 第 36 回日本死の臨床研究会の記録

### 会長講演

1. いのちの継承と再生 堀 泰祐・若村智子

### 鼎談

1. 日本人の心と魂 柏木哲夫

### 特別講演

1. 死ぬこと、死なれること 鷺田清一  
2. ことばのカー最後まで自分らしく生きるとは 永田和宏  
3. 死と再生の臨床—死を超えて、生を生きる 山中康裕  
4. おひとりさまの最期 上野千鶴子  
5. 死の学び舎 徳永 進  
6. 遺族ケアの立場から見た終末期ケア 加藤 寛  
7. 苦しみに向き合う人々と共に生きる 山崎章郎

### 教育講演

1. 終末期、予後告知、在宅医療、補完代替医療  
—難しい場面でのコミュニケーションをどのように考えるか？ 平井 啓  
2. 死に臨むケア 林 章敏  
3. CARE for CAREGIVER—その人らしく、あなたらしく 田村祐樹  
4. がん患者のスピリチュアルケア—痛み・不安・無意味へのケア 村田久行

### シンポジウム

1. 死んだらどこに行くのでしょうか—患者さんの問いにどう答えますか  
総合コメント・司会 細川豊史  
基調講演 細川豊史  
死んだら仏の古里に帰ります 小藪実英  
宗教的ケアの必要性 沼野尚美  
死の意味を支え、生きる意味を支える 花岡尚樹  
2. 死の臨床におけるリハビリテーション 総合コメント・司会 安部能成  
死の臨床におけるリハビリテーション 安部能成  
終末期のリハビリ—PT実態調査から 田村 茂  
地域の保健医療資源を活用した緩和デイケアにおける  
リハビリテーションの可能性と課題 阿部まゆみ  
死の臨床におけるリハビリテーションのころろ  
—四万十川のほとりの診療所での実践から 小笠原 望  
3. 在宅における死の臨床の意味 総合コメント・司会 神野君夫・畑野秀樹  
在宅における死の臨床の意味 神野君夫  
在宅ケアは 30 年後のための「いのちの教室」 畑野秀樹  
在宅における死の臨床の意味とは—臨床における経験・学び 吉田真美  
生きることの集大成を支える相談支援ガイドライン 川島孝一郎

4. グリーフケアの今とこれから 総合コメント・司会 坂口幸弘・黒川雅代子  
 医療者と遺族活動との連携によるグリーフケア 坂下裕子  
 心療内科からみた悲嘆（グリーフ）ー複雑化した悲嘆を中心に 村上典子  
 葬儀社によるグリーフケアーひだまりの会の軌跡 泉原久美  
 ホスピス・緩和ケア病棟におけるグリーフケア 坂口幸弘

5. 認知症高齢者のエンド・オブ・ライフーいのちについてどう考えるか 総合コメント・司会 田村恵子・西川 勝  
 認知症の人と向き合う 木之下 徹  
 豊かないのちの看取りー生活の中のケア 桑田美代子  
 「いのち」は割り切って考えられるか 林 道也  
 自宅介護・看取りから認知症の人の週末を考える 坂口義弘  
 認知症高齢者をめぐる倫理コンサルテーション 會澤久仁子

6. がん患者の希望を支える代替療法 総合コメント・司会 黒丸尊治  
 がんに対する活性化自己リンパ球移入療法の役割ーがんは克服できるか 山口佳之  
 改良型腹水濾過濃縮システム：KM-CART によるがん性腹水に対する積極的的症状緩和  
 ー生きる希望の灯をともし 松崎圭祐  
 免疫力でがんを治す 杉山治夫  
 がんに対するビタミンC大量点滴静注療法ーその現状と将来展望 川田浩志

7. 緩和ケアの展望ー非がん疾患の緩和ケア 総合コメント・司会 加藤恒夫  
 終末期ケアの質と現状の課題 池上直己  
 がんも非がんも支えるところは一つ 蘆野吉和

8. がん悪液質の理解とケア 総合コメント・司会 東口高志  
 がん終末期患者に対する代謝栄養管理  
 ー特に、Refractory Cachexia の概念を中心に 伊藤彰博  
 がん悪液質の最近の進歩ー食欲調節ホルモンの立場から 乾 明夫  
 がん悪液質とケアーリハビリテーションの立場から 安部能成

#### パネルディスカッション

1. リンパ浮腫ケアの臨床から学ぶー全人的ケアの一つとして 富田英津子・他  
 2. 旅立ちのおもてなしーエンゼルケア…何を大切にしていますか？ 秋宗美紀

#### フォーラム

1. がん体験医療者が語る患者のための死の臨床 川上 明

#### ランチョンセミナー

1. 臨終考ー誰が迎えに来るのか 野田隆生  
 2. 医療経済からみた緩和医療の将来 下妻晃二郎  
 3. 死の臨床に役立つサイコオンコロジー 林 晶子

- |                                    |      |
|------------------------------------|------|
| 4. 人はなぜ悩む、楽になるとは一語りの本当の意味と医療者の立ち位置 | 佐藤泰子 |
| 5. デスケースカンファレンスからみえることー臨床へのフィードバック | 吉田智美 |

#### 教育研修ワークショップ

- |                         |      |
|-------------------------|------|
| 1. 2012年度第2回教育研修ワークショップ | 馬場祥子 |
|-------------------------|------|

#### 国際交流広場

- |           |      |
|-----------|------|
| 死生観を語り合おう | 藤井義博 |
|-----------|------|

#### 企画委員会主催

- |                |      |
|----------------|------|
| 真の援助者について語り合う会 | 小澤竹俊 |
|----------------|------|

#### 特別事例検討

- |   |       |
|---|-------|
| 1. 「歩けないなら生きていても仕方がない。殺して」と訴え続け、睡眠障害に苦しんだ1例 | 比嘉陽子  |
| 2. 患者の鎮痛剤に対する信念が効果的な疼痛緩和に結びつかず悩んだ事例         | 藤本早和子 |

#### 事例検討

- |  |       |
|--|-------|
| 1. 認知機能の低下から意思決定に困難を生じた乳癌患者への支援<br>ー残される子ども、実母への支援を中心に     | 上田純子  |
| 2. 「あきらめ」から「希望」に変化した事例を通じて                                 | 角田耕紀  |
| 3. 母のつくったファンタジーの中で、ともに生きていこうとしている弟の課題                      | 植松温子  |
| 4. 40年間未治療のまま自閉生活を送っていた統合失調症患者のがん終末期緩和ケアを考える               | 野村晶子  |
| 5. 同時期に終末期を迎えた夫婦への関わりについて                                  | 澤田朱美  |
| 6. 30歳代のがん患者のトータルペインと在宅看取りにおける課題                           | 宇野さつき |
| 7. 末期がん患者の透析終了後の判断ー医療者である長女の葛藤                             | 平田妃奈子 |
| 8. 「話せない、見えない、聞こえない」それでも表現し続けた患者との関わり<br>ー私たちが考える見守りとは     | 吉川比佐子 |
| 9. 自宅で最期まで過ごしたいと希望する患者と家族の揺れる気持ちに寄り添う<br>ー訪問看護師の役割とは       | 福田裕子  |
| 10. 「死にたい」とビニール袋をかぶり、自殺を図ろうとした患者の意思決定を<br>支援する看護師の葛藤       | 新保嘉子  |
| 11. 医療者患者間に食い違いがあったために患者夫婦への関わりが遅れた事例                      | 北本直子  |
| 12. 「がんばる」患者を支えるためにすること                                    | 萩原加寿巳 |
| 13. 20歳代悪性腫瘍患者の「最後まで治療したい」という気持ちに寄り添う                      | 濱口大輔  |
| 14. 退院の意思が尊重されず苛立ちを表出している終末期造血器がん患者への関わりについて<br>濱田麻紗子・平野照子 |       |
| 15. スピリチュアルペインを有する患者を病診連携の中で看取ることができた1例                    | 鳥塚寿徳  |

#### 原著

- |                                  |        |
|----------------------------------|--------|
| 1. がん終末期の統合失調患者を看取る精神科看護師の戸惑いと希望 | 荒井春生・他 |
|----------------------------------|--------|

## 調査報告

1. 主治医と患者・家族における「予後認識のずれ」についての研究 佐藤恭子・他
2. 病院職員の死生観に影響を及ぼす臨死患者との関わり要因の分析  
－「他者の死の自己への内在化」の検討 加藤喜久美
3. 親は幼い子どもに対して死をどのように説明しているのか？  
－特に死別場面に注目して 辻本 耐
4. ホームホスピス「愛逢の家」の入所者と家族の生活の認識の変化  
－遺族のインタビューから 岡本双美子・他
5. 基礎教育における死後の処置教育と死後の処置を教える教員の終末期ケア及び死に対する態度 平野裕子・他